

国際ソロプチミストアメリカの会長に就任した森田和子さん

(京都市左京区)



「女性・女兒の夢実現を」

ソロプチミスト米連盟会長 左京の森田さん就任

国際ソロプチミスト 京都(京都市中京区)で活動する森田和子さん(77)は左京区が、南北アメリカや環太平洋地域を統括する国際ソロプチミストアメリカ(SIA)の連盟会長に就任した。日本人の選出は3人目。今年、SIAの創立100周年に当たり、森田さんは「奇跡的な巡り合わせ。女性と女兒の夢の実現に向けて力を尽くす」と抱負を語る。

1921年に米国で誕生した国際ソロプチミストは、英国・アイランド、ヨーロッパ、南太平洋、アフリカを合わせた世界5連盟で

構成している。SIAは最大組織で、会員は20カ国・地域の約2万7千人で、トップに立つ会長は1年ごとに交代する。日本人がSIAの連盟会長を務めるのは、2003年の早石多喜子さん(京都市、07年の故山田真知子さん(山口県)以来となる。森田さんは19年、次期会長が就く「連盟会長エレクト」に立候補し、米国人ら5人の中から投票で選ばれた。今年9月から会長として活動を開始した。

森田さんは京都薬科大卒。国際ソロプチミストには1985年に

入会し、中部・近畿地方を束ねる「日本中央リジョン」で広報委員長、地区理事として精力的に活動してきた。英語も堪能で、2006～14年には講師として母校の教壇に立ち、薬学英語を教えた。

会長として重視するのが、SIAが活動の柱に位置付ける「夢プログラム」。31年までに教育を通じて世界50万人の女性と女兒の夢を応援する取り組みで、必要な資金1500万円(約16億6千万円)を今後2年で調達する目標を掲げる。国際ソロプチミストの知名度向上も課題という。歴史は1世紀に及び、近年は会員の高齢化が進む。森田さんは「チャリティー文化を広げ、若い人を増やしたい。新型コロナウイルスの流行で助け合いが重要となる中、奉仕の意義を伝えるチャンス」と前を向く。

(柿木拓洋)